

2024 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	総合科学部・総合科学科・2 年
------------	-----------------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか 今回の START プログラムでたくさんの人と交流しました。その中で、2つのことを学びました。1つ目は、積極的になることの大切さです。母国語ではない英語を用いてコミュニケーションをとるため、初めは正しい英語を話そうとしすぎて、自分から話することが出来ないことが多くありました。しかし、多くの人と出会い、会話していくことで、自分の英語が相手に伝わっているという実感を持ちました。そこから、自分から話しかけることが出来るようになり、会話もそれ以前よりもっと楽しくなりました。自分から話せば、相手も理解しようとして聞いてくれるという安心感により、以前よりも英語を話すことに抵抗がなくなりました。 2つ目に、多様な考え方を学びました。私は海外に行った経験がこれまで一度もなく、今回が初めての海外渡航でした。様々なバックグラウンドを持つ人と会い、アメリカの大学の話を聞くことや、様々な考え方に触れることにより、自分の視野が広がったように感じました。現地の学生の中には、専攻分野を1つだけではなく、2つ持っている学生もいました。私も刺激をもらい、もっといろいろなことに挑戦してみようという気持ちになりました。また、授業の中で、渡航先の大学院への受験の方法や、受けることが出来る支援について教わりました。今まで、日本でのキャリアしか考えていなかったものの、いろいろな人から話を聞くにつれて、海外でのキャリアの可能性も視野に入れようという思いになりました。きっと、このプログラムに参加しなければ、そういった考え方にはたどり着かなかったと思います。 今回の START プログラムでの経験や学びは、私にとって良い刺激となり、自分の語学力の向上やたくさんすることに挑戦することへのモチベーションにつながりました。私の英語力はまだまだ未熟なので、これからも英語の勉強を続けつつ、大学内での国際交流などに参加し、英語でのコミュニケーションの機会と、様々な人と交流する機会を増やしていきたいと考えています。また、今回の START プログラムを通して、自分の考え方や視野が広がったため、今回の経験を活かし、自分の将来の可能性をさらに広げることが出来るよう、頑張りたいと思います。
(2) プログラム内容についての全体的な感想 全体を通して、とても楽しかったです。現地の学生との交流もたくさんできましたし、

観光も十分にできたと思います。決められていたスケジュール以外の時間の自由度がかなり高かったため、現地の学生とご飯を食べるなどして、親交を深めることが出来ました。大学での授業は講義形式のものと学生との交流の 2 つがあり、講義形式の方では知識を身に付けることができ、学生との交流の方では、英語で話す力を鍛えられたと思います。ただし、講義形式の授業はすべてを理解できたというわけではないため、PPT などを見て、もう少し勉強する必要があると感じました。また、英語力については、アメリカにいる期間が長くなるにつれて、リスニングができるようになっていったと感じました。スピーキングについても、割と相手に伝わるため、英語を話すことにあまり抵抗がなくなりました。少しの間でしたが、アメリカの大学で生活できたことは非常に貴重な体験だったと思います。もう一度行きたいと思えるようなプログラムでした。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

アメリカの外食は量が想像以上に多いです。日本食を持って行っておくのも良いですが、食べきれず、スーツケースのスペースが開かないまま帰国となってしまうので、持っていく日本食の量は最低限にするとよいと思います。また、渡航時に何本かペットボトルの水を持って行っておくと、いざという時役立ちます。そして、普段胃を悪くしない人でも、食べすぎによって胃が持たれたりするので、胃薬をお勧めします。また、アメリカはクレジットカードがメインであるため、ドル札はチップ用に最低限で良いと思います。英語力に関しては、リスニングを鍛えていくと良いと感じました。私は、渡航してすぐの時は、ネイティブの自然な速さの英語を聞き取れないことがあったため、渡航前にリスニング能力を鍛えておくと、より良かったなと思っています。そして、何より 1 番大切なのは、楽しむことです。現地の人は、私たちをあたたく迎えてくれますし、私たちの英語を理解しようとしてくれます。英語で話すことを恐れずに、いろいろな人と会うことで自分を成長させることが出来ると思います。

2024 年度後期 START プログラム 事後レポート

所属学部・学科・学年	工学部第三類一年
------------	----------

(1) START プログラムに参加して何を学んだか、この経験を今後どのように活かしていきたいか 現地で講義や学生の話聞いていくと大学生に求められているものに関する日本とアメリカの相違がわかった。日本では、大学生には単純な学力が求められる。実際に入試は差がつくレベルの難易度で完全な実力主義である。対してアメリカでは大学に志願するまでに何をやってきたのかといった経歴や小論文が求められる。ここでは実力よりも志願者がどんな背景を持ち、どういった考えをもった人間なのかということ問われているように思われる。また、就職活動においても大学生時代のボランティア、インターンの経験は必須であるということからアメリカではその人間がどんな人間なのかということが重視されているのだとかがえる。就職活動という、アメリカでは永住権の有無、教授からの推薦状といったものが非常に重要だということも知った。本プログラムで得た一番の学びはコミュニケーションととらえる姿勢の重要さだと思っている。以前にも海外に行ったことはあるが、今回はそれ以上に英語で意思疎通を図らなければ行けない機会があった。もちろん大学内だけではなくホテルのフロント、スーパー、レストラン、観光地もそうだ。流暢に喋ることができなくとも伝えようと何とか言葉を発すれば多くの場合相手は耳を傾けてくれるし、自分の意思を伝えられるのだとわかった。現地で日本語学習者との交流の機会があったが、そこでも頑張って日本語で自分を表現しようとしている人の言葉には耳を傾けようと感じたし、意思の疎通ができた。一方で、自分が外国人だからといって容赦してくれることはないのだということもわかった。他にも現代は翻訳アプリがあるのだから語学の学習は必要ないなどという考えはやはり間違っていると思った。この経験を今後の語学学習のモチベーションとしていきたい。今回、積極性の大切さを学んだ。今後の人生において、授業、研究、就活等において自己を表現しなければならない場面は必ず存在する。今回感じ取ったように、伝えようとする姿勢を忘れないようにしたい。
(2) プログラム内容についての全体的な感想 全体的にかなり充実した内容だと思っているし、金銭的な負担も広島大学、パデュー大学の双方の協力でかなり軽減されたのでとても満足している。一方で、多少の後悔や不満もある。まず、もっと積極的に発言するべきだったと思う。確かに、伝える姿勢が大事だということを学んだが、発言する機会をもっと自分から作りに行くべきだった。また、リスニング能力の重要性も痛感した。せっかくの授業もリスニング能力の欠如で頭にあまり入ってこないときがあったし、そもそもリスニングができないと会話が円滑に始まらない。もっと聞き取りの勉強をしておくべきだったという後悔があることは否定できない。

自由時間が多かったことは個人的には少しもったいないなと思うところがあった。パデュー大学の方との日程の調整もありなかなかうまくはいかないものなのだろうとは察するが、せっかくの機会なのでもう少し講義を聞く時間があっても良かったのではないかなと思った。とはいえ、とてもよい経験をこのプログラムで得ることができた。特に、JSA の方たちとの交流はとても良かった。からっとした人ばかりで、とても面白い話もしていただいて彼らにはとても感謝している。日本語学者との交流もとても満足している。他には、施設紹介、キャンパスツアーといった時間もとてもありがたかった。実際にアメリカにいてみて、教科書には載っていないがよく使われるというような表現、スラングをたくさん聞くことができとても嬉しかった。

最後に、木戸先生、オースティン先生をはじめとした、このプログラムの関係者様方に感謝申し上げたい。

(3) 今後 START プログラムに参加する後輩へのアドバイス

本プログラムはとても短期間であるし、日本人の仲間もいて、先生方の手厚いサポートもあるため多少何か欠けていてもなんとかなるから失敗を恐れずに色々なことに挑戦してほしい。海外に行くのが初めてだという人は積極的に英語を使って自分を表現することで今まで英語を勉強してきたことは無駄ではなかったのだと体験してほしいし、逆にネイティブの方達による講義や会話に触れたり、英語で自分を完璧に表現することの難しさを体験したりして、まだまだ学習の余地があるのだということを痛感してほしい。

自分が知る限りでは人種差別には遭わなかったのもそういったことは安心できるとおもう。今回の場合だと話す機会よりも聞く機会のほうが圧倒的に多かったし、半導体の講義はかなり難しかったので、リスニング及びテーマに関する勉強を強く勧める。食事については、ほとんど学食、外食だったがそんなにジャンキーなものが出てくることはなく日本食を多く持ってきた人は自分も含めみんな余っていたのであまり日本食はいらないと思う。胃薬は持っておくと良いと思う。チップはカードで支払うことがほとんどだったがチップ以外でも現金を使う機会があったので多少は持っておくと良い。硬貨が必要な場面もいくつかあった。マクドナルドなど海外のお店でもらえるレシートは捨てないでと日本との違いに気づけたりするのでそういうことに興味がある人は保管することを勧める。もし今回のシカゴツアーのようにほとんど完全な自由時間がある場合は事前に行く場所を決めておくとも時間を無駄にしないし、考えることも減る。そもそも、プログラム全体を通してやりたいことを決めておくとも良い。